

堀川について

堀川は1610年に名古屋城の築城にあわせてつくられた川で、まちの成長とともに形を変えながら、今も名古屋のまちの真ん中を流れています。そんな堀川沿いを歩いてみると、普段気にもとめないようなところに名古屋の歴史をひも解く鍵が隠されていたりします。お散歩しながら名古屋の歴史の一端に触れてみてはいかがでしょうか。もしかしたら名古屋のまちの見方が変わるかもしれませんよ。



堀川全体MAP



発行：堀川まちづくりの会（事務局 名古屋市河川計画課）
監修：堀川文化探索隊、堀川文化を伝える会



Around the Horikawa

堀川ナビ!

四間道エリア 納屋橋エリア

探索マップ





堀川ナビ!!



レトロとモダンを楽しむ、大人の空間

四間道エリア

かつて商人の町として栄え、今も残る土蔵と軒を連ねる町家が当時の面影を残します。昭和レトロ漂う円頓寺商店街と合わせてグルメや散策を楽しむことができるエリアです。

定番イベント

- ▶ 円頓寺七夕まつり(7月)
- ▶ 円頓寺秋のパリ祭(11月)



納屋橋や旧加藤商会ビルなど大正ロマンが漂う建築物や堀川に面したカフェテラスがあり、堀川フラワーフェスティバルや夜イチなどイベントも多く開催されるエリアです。

定番イベント

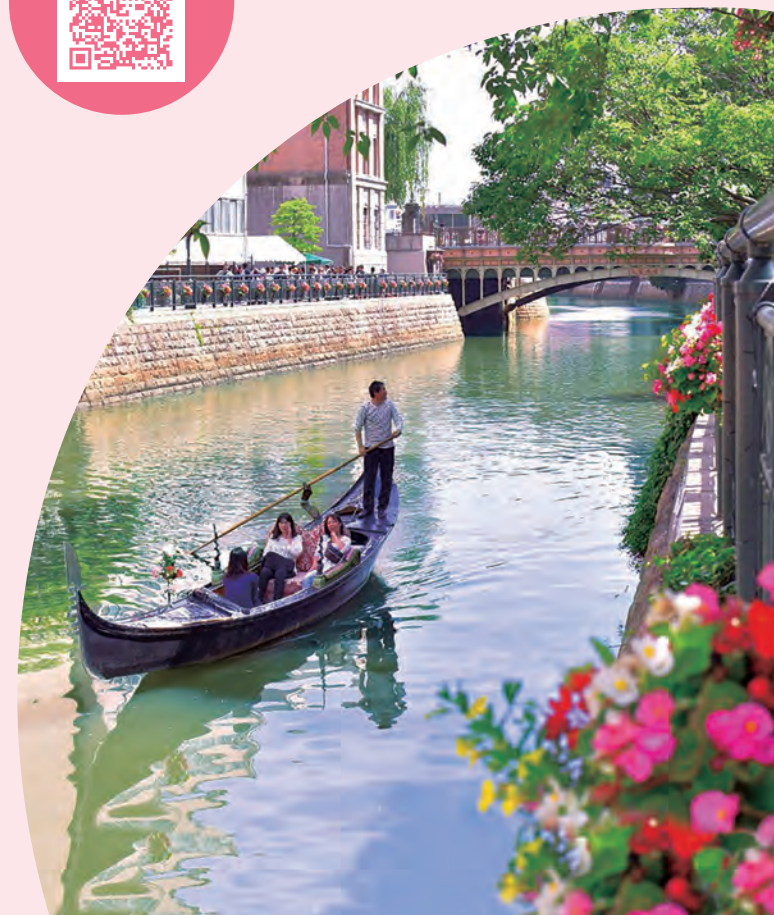
- ▶ 堀川フラワーフェスティバル(5月)
- ▶ 堀川ウォーターマジックフェスティバル(秋頃)
- ▶ なやばし夜イチ(毎月第4金曜日)

堀川ナビ!!



納屋橋エリア

川と人がつながる、都会のオアシス



四間道エリア

1 五條橋 (五条橋)

堀川七橋*のひとつで、一番上流に架けられた橋。名古屋の街は名古屋城築城の際、清洲から街ぐるみで引越した。住民や神社、寺院などとともに、清洲城そばの五条川に架かる五條橋も解体して運んできたと伝えられている。橋に付いている「擬宝珠」はレプリカで、本物は名古屋城で保管されている。



※堀川七橋：堀川開削のころに架けられた七つの橋。上流から五條橋・中橋・伝馬橋・納屋橋・日置橋・古渡橋・尾頭橋がある。

2 円頓寺商店街

昭和のレトロ感が漂う懐かしさと、新しさを感じられる名古屋でオンリーワンの商店街。



3 貞松院下屋敷

江戸時代初期に、初代尾張藩主義直の側室である貞松院の下屋敷があった場所。

4 四間道

江戸時代の風情を残しながら、個性的な町並みを生かした新しい店が立ち並ぶエリア。



5 伊藤家住宅

清洲越しの町人であり、薪炭商、穀物問屋、新田開発まで行った伊藤忠左衛門家の屋敷。



6 慶栄寺

阿原村(現:清須市)から皆戸町(現:中区)へ移転し、享保の大火後に現在の地に移った寺。

7 金刀比羅神社

元は三の丸の大道寺邸(現:県図書館)の庭に祀られていたが、安政6年(1859)にこの地へ遷座。

8 円頓寺

祀られている鬼子母神像は、天守閣棟木の余材で刻まれたもの。安産・育児の神として多くの人が参拝に訪れた。

9 専修寺名古屋別院

かつては真宗高田派の尾張における中核寺院で、多くの伽藍が建ち並び、盛大な御開帳で賑わった。

10 屋根神様

子守地蔵のある路地り入口の、長屋の屋根の立派な屋根神様の祠。屋根の上に社を載せて神様をお祀りするのは、名古屋市西区で特に多く見られる形態。人家が密集する下町で適当な土地がなかったため、屋根に社を設けたと言われている。



11 子守地蔵

地中にあったとされる石仏。毎年8月23・24日の地蔵盆には提灯に火が灯され、地藏堂から和讃が流れる。

13 白山神社

かつては今より南西にあり、泥江縣神社の祭礼では御旅所になっていた。秀吉の朝鮮出兵にまつわる伝承が残されている。

12 中橋

堀川七橋*のひとつで、五條橋と伝馬橋の間のため「中橋」と名付けられた。橋の東側は木材や竹・薪・炭などを扱う商人、西側は米・味噌・醤油・肥料などを扱う商人が住み、堀川の舟運や筏による輸送により繁栄した。城下町の流通基地・問屋街・木材団地などの性格を持つ地域で、両岸を結ぶ中橋は城下町の産業に欠かせない橋だった。

『尾張名陽図会』に描かれた中橋風景



14 桜通と桜橋

昔、「桜の町筋」と呼ばれていた通り。桜橋はいたるところに桜のモチーフが使われている。

15 伝馬橋と美濃街道

堀川七橋*のひとつで、東海道の熱田宿と中山道の垂井宿を結ぶ美濃街道(美濃路)が通り、堀川で一番賑わっていた橋。

堀川沿い見どころMAP

～四間道、納屋橋エリア編～



●明道町 ●四間道(メークル) ●愛知県図書館 ●国際センター
●円頓寺通南 ●広小路伏見 ●柳橋西 ●柳橋 ●八角堂前
●下広井町三丁目 ●新州崎橋 ○納屋橋 ●科学館西

16 泥江縣神社

名古屋の街ができるずっと前からこの地に建っている神社。名古屋開府以前は非常に広い境内だった。

17 光明院

立派な山門を構える光明院は、千石船に乗るお地藏さんがあることで有名。舟運による商取引が活発だった地域のため、航海の安全祈願や海難事故で亡くなった人たちの供養のために建てられたと言われている。

18 花車神明社

かつての広井村の氏神で、鳥居をくぐると右手の手水鉢の際に井戸が残されている。その横の手水鉢の水の注ぎ口は独特のモチーフが特徴。

19 浄信寺

120余年前に建てられた本堂がある静かな寺。鐘は太平洋戦争の金属供出で失われ、立派な鐘楼には鐘の代わりに石が釣り下げられている。

21 錦通と錦橋

当初は高速度鉄道(地下鉄)を通すために計画された道路である錦通。錦橋の橋台の一部は地下鉄のトンネルの上に乗っている。

23 柳橋駅

昭和16年まで、郊外電車の始発駅「柳橋駅」があった場所。

24 名古屋ホテル

明治期に名古屋は城下町から産業都市に変わり、来訪者が多様化する中、名古屋さっての西洋式ホテルとして誕生。昭和11年(1936)に名古屋観光ホテルが完成し、その役割を引き継いだ。



28 堀川沿いの山車

交通や物流の中心だった堀川沿いの町には3台の山車が残されている。いずれも文政年間(1818~1830)に建造され、昭和48年(1973)に名古屋市指定有形民俗文化財に指定された。

29 水路と水車

天王崎橋の南西にはかつて、江川と堀川をつなぐ水路があり、水車がまわっていた。

納屋橋エリア

20 旧加藤商会ビル

昭和6年(1931)に建てられ、現在は改修されて地下は堀川ギャラリー、1~3階はタイ料理店として利用されている。戦前はシャム国(現在のタイ)の領事館の役割も果たしていた。



22 中抜き十文字

納屋橋バルコニー部の欄干に「中抜き十文字」と呼ばれる福島正則の紋が付けられている。南東の堀川岸には、御普請総奉行として堀川を造った功績をたたえ、正則の像が建っている。

25 納屋橋

堀川七橋*のひとつで、堀川と広小路が交差するところに架けられている。橋が架けられた頃の広小路は、城下町の南の端で、納屋橋より美濃街道が通る伝馬橋の方が賑わっていた。

納屋橋バルコニー部の欄干の「中抜き十文字」



26 尾張藩蔵跡

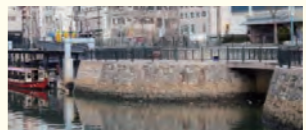
かつて納屋橋の東南にあった広大な藩蔵。江戸時代の租税は主に米で徴収されており、尾張藩の各地から集められた米は、堀川を利用してこの御蔵に収められていた。

建ち並ぶ蔵。左の橋は納屋橋。『御船御行列之図』



27 東海倉庫

明治末期に開業した倉庫。混雑する堀川岸での荷役を避け、構内への引き込み水路が設けられた。その引込口は今も残り、船輸送全盛時代の名残を伝えていいる。



30 堀川端の役所

江戸時代、今の洲崎橋付近には尾張藩の水軍や水運、河川行政をつかさどった役所が建ち並び、堀川岸は水に係る軍事・行政の中心にもなっていた。

31 八角堂

堀川西岸に建つ法蔵寺は境内に八角形のお堂があり、通称八角堂と呼ばれている。

32 堀川船番所

江戸時代、堀川には出入りする船を見張る船番所が設けられていた。

33 愛知医学校跡

明治に西洋の文化がどんどん入ってきた際、早い時期に受け入れられた西洋医学。堀川端には、当時の先端医療と医学生の育成を行う愛知病院と医学校があり、自由党党首の板垣退助が岐阜で暴漢に襲われた時には、病院長であった後藤新平が治療に駆けつけた。

34 洲崎神社(廣井天王社)

名古屋の街ができる前からある神社で、神輿巡行や御葺流し、巻藁船などが堀川で行われるなど堀川と縁が深い神社。

35 紫川

城下町の雨水や排水のほとんどは紫川で堀川へ排水されていた。元は名古屋台地から流れ出す自然河川で、名前は紫式部に由来するとの説がある。

36 堀川の川湊

名古屋の城下町の南端近くの洲崎には港があり、規模は大きくないものの、尾張藩や堀川にとって重要な施設だった。